



Title	『肖柏友弘等恋百韻』 解題と翻刻
Author(s)	浅井, 美峰
Citation	詞林. 2025, 78, p. 66-73
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102897
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『肖柏友弘等恋百韻』 解題と翻刻

浅井 美峰

解題

『肖柏友弘等恋百韻』は、連歌師の牡丹花肖柏とその門弟の友弘（宗汎）等によって永正三（一五〇六）年九月一日に張行された、全て恋の句で構成された百韻である。

本稿では、室町後期写と見える架蔵の一卷を紹介・翻刻する。基本的な書誌事項を以下に示す。

【装丁】 卷子装（改装）

【表紙】 深縹地に金糸亀甲紋織。見返しは金。

【外題】 なし

【内題】 恋百韻

【紙数】 八枚継ぎ。巻頭に内題「恋百韻」が記された後、連

歌懷紙の書式に則り、賦物と八句、第二・七紙に各一四句、第八紙に八句と句上を書く。第二・三・五・六・七紙冒頭には、順番を示した「二」「七」の書き入れあり。

【寸法】 縦一八糎。各紙の長さは、第一紙四四・六糎、第二

紙五〇・三糎、第三紙五〇糎、第四紙五〇・二糎、

第五紙五〇・四糎、第六紙五〇・四糎、第七紙五〇糎、

第八紙三七・七糎。

【料紙】 楮紙

【備考】 書かれたのは室町後期と目されるが、現状の形に整えられたのは江戸期以降。

作品成立とそれほど変わらない時期に写されたという点で貴重であり、かつ他の諸本で欠脱のある箇所や諸本間で本文に揺れのある箇所を確認・補完することができ、当該作品を読む際に参照する価値のある本だと考える。

連衆の句数は、最後に句上がある通り、肖柏が二六句と最も多くの句を詠み、次いで宗全が二二句、宗坡・真存が二〇句、友弘が一二句を詠んでいる。一巡の最後、六番句に一句詠んでいる石文は執筆と推測される。

注目されるのは書き様である。一三番句末尾の「秋くれて」

の「て」が「れ」の左隣にあり、作者名に掛からないように避けて書かれているように見える。このような書式（図3参照）は他の連歌資料にはほとんど見られない。通常の書式では、句を二行書きし、その後作者名を書く。しかし本書では、先述した句の末尾の文字が一行に収まらず別行に書かれた箇所が見られること、墨色が句と作者名で異なり、連続せず別々に書かれたように見えること、前の句に次の句の文字が重なって書かれていることから、先に句の作者が書かれた後から句が書かれたのではないかと推測される。先に作者名を書き、後から句を書いていったために、句を書くスペースに制約が生まれ、このような書き様になった可能性がある。

なお、『肖柏友弘等恋百韻』の内容については、「連歌の恋句について―作中主体とジェンダー―」（『日本文学研究ジャーナル』三〇号、二〇二四年六月）の中で言及したことがある。併せてご参照いただきたい。

附記 本稿は科学研究費（若手研究・24K15972）による成果の一部である。

〔注〕

（1）京都大学附属図書館平松文庫蔵本、国立国会図書館蔵本に拠る。確認し得た他の諸本（大阪天満宮蔵本、天理大学附属天理図書館綿屋文庫蔵本、架蔵本）には年時の記述はない。

（2）当該百韻の張行について、また、肖柏と友弘はじめ堺の門弟との関わりについては、木藤才蔵『連歌師論考下』増補改訂版（明治書院、一九九三年）に詳しい。

〔凡例〕

- 一、底本は架蔵本『恋百韻』を用いた。
- 一、翻刻に際し、できうる限り底本の体裁を保存するよう努めたが、以下の方針に従って最低限、手を加えた。
- ・各句の上に句番号（1～100）を付した。
- ・仮名遣いは底本のままとした。
- ・漢字は通行の字体に統一した。
- ・改行は底本に従った。
- ・紙ごとの切れ目に閉じかぎ括弧（）を付した。
- ・紙の順番を表す書き入れは省略した。
- ・試案として読みをルビに括弧書きで示した箇所がある。

翻刻

恋百韻

賦何船連歌

1 ちらすなよ秋に

心のした紅葉

肖柏

2 しくれも露も

うらみある比

友弘

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3
ねに啼虫や	浅茅生秋くれて と絶行宿は	いか、あかさむ 月もかれなは	くらせとや雨の音 袖をさへかき	さほく雲風 こゝろも人に	みねの松もうし たのめとは契らぬ	なむかふらむ ゆふへのとかと	しらは迷はめや われからのおもひと	中となりなき 千さとへたつる	みえこし夜はならん いつまでか夢も	ひとりねの空 とはあらしに	おもかけの立そふ 月を身にしめて
	肖柏	真存	宗全	宗坡	真存	肖柏	友弘	石文	宗全	真存	宗坡

┌

25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
岩ふむ程とをみ 問ぬをいひかゝる山すみ	残さしうらみ かゝる山すみ	ゆめの夕煙 馴し世は昨日の	おなしかすみの なかめたにせよ	やははるの月 さても又もろ共に	花もおもふや あくる別路	きぬの音人香も それとにほふ夜に	われそくるしき あらずといふも	物から名やたゝん 忍へたゝあはぬ	あはれかけめや こゝろみゆとも	身の露もきえは きえねと難面 <small>つれなき</small> に
全	柏	存	肖柏	宗全	宗坡	肖柏	宗全	真存	肖柏	宗坡

┌

37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26
いかきをも独し	ゆふしてもかな なひくにならふ	しるしはつれなくて	なみの朝ゆふ たちゐにもいのる	いつとまぐらの ならめや遠つ人	われによる舟ち たつねは行ゑ 風もをしへよ	なりつる花すゝき 結ひしはほのか	なぞ露のまも わすれたにせぬ	とての秋の空 すむ月もなくさめ	おもひあやしき たかなさぬしも	種は見まくほし 袖の上の泪の	こゝろのまつそ 陰も木しけき

存	全	柏	坡	全	柏	全	柏	存	弘	坡
「										

48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38
いななさ、はら したふも人は 羽をとに尽すらん	なみたなと鳴の いひし月かは	有明までと あきのさよ衣	しきわひぬまとをの 袖そ色そふ	木葉しくれの たへぬ物にして	さま／＼のつらさは 命とやせむ	いとひはてぬを 待みる玉章に	大方のなさけ おほきうきふし	たのむとなれは おもひ絶もせて	邂逅 <small>（たぐひあひ）</small> のまことに 身をやおしまん	ちきりの末に こえはかひもなし

全	柏	坡	存	柏	全	存	柏	坡	弘	柏	坡
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49
かけみし末や	秋の田のかりそめ ふしのしのゝめに	雁もなく也 うき帰るさを	あた人に春やは ならふまでしはし	又もとひこむ 花こそよすか	桜戸こもるなよ こゆるあふ坂	名をむつまじみ 忘れぬかけの	関守もおもふ道 にはかたからて	よひくの夢 かよはぬ間なき	いとたのまゝし 哀ともみるめを	いさり火のくれ こゝろにもたゝ	はけしさはそれも 及はし湊かせ

柏	存	弘	全	坡	存	全	柏	存	坡	弘
									┌	

71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
にほひもあちきなく 橘をそての	人はまたれす ほとゝきすにも	一夜あかしかた ことゝへはかなき	江による波も たよりならずや	あし原のはつかに こそは見そめつれ	なみたなりけり 天地にみつ	世をいつちいなは おもひの外ならん	かくれ家もなし おもかけはなを	くるしむる山みちに 余波さへ身を	いもか悲しさ ほとは雲井の	あこかれこひくゝて よるくの月に

全	坡	柏	弘	存	柏	全	存	坡	柏	全	坡
							┌				

83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72										
人に身はさかへ	甲斐やなからむ うきしつみても	を舟こきいてよ	心たゝあらいそ	かゝるあらまし	はなれかたくて	つくす空ならん	おもふ事いつかは	みねのよこ雲	かたるかうちに	人につろひて	月もはや今はの	まつむしの声	たえねかひなき	霜にかこつらん	消かへりいく露	くれことの秋	ならはしの身に	物とおもひきや	めかるれはかゝる	しらすかほなり	むかし馴しも

存 柏 坡 全 存 柏 全 存 柏 坡 弘

└

94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84											
うかれしもせず	しのへは春に たにとひ侘て	この比の花鳥に	日こそなけれ	おもひやりつゝ	われをなくさめよ	せめてたゝゆふへも	雨も過けり	さはらんとせし	露のみちぬらん	手枕にいつくの	あらふよの月	ふたりねぬより	きつゝ秋更て	萩の葉にとつれ	なにおもひ草	かれはかれなて	影ものこらまし	夢計みしやは	なみたこそそへ	あさかゝみには	おとろへたゝりて

坡 柏 存 弘 全 柏 存 坡 柏 全 弘 坡

└

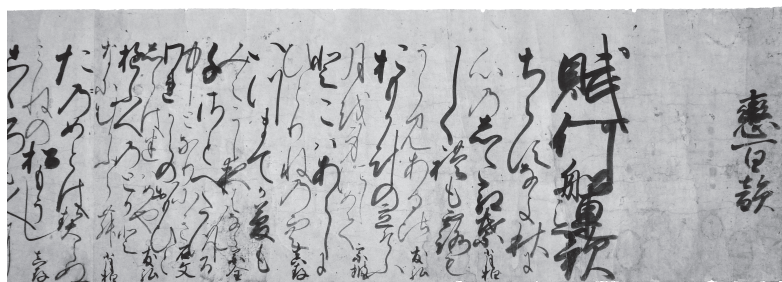
『肖柏友弘等恋百韻』 解題と翻刻 (浅井)

95	96	97	98	99	100
野山にもこゝろ	身をかゝるへき	いはれぬ濡衣	雪みそれふる	月に今つけやら	きくや過ゆく
うかるゝ物おもひ	つらさともなし	ならはいかゝせん	よるの中道	はやも更はてゝ	かりの一こゑ
存	全	坡	柏	弘	全

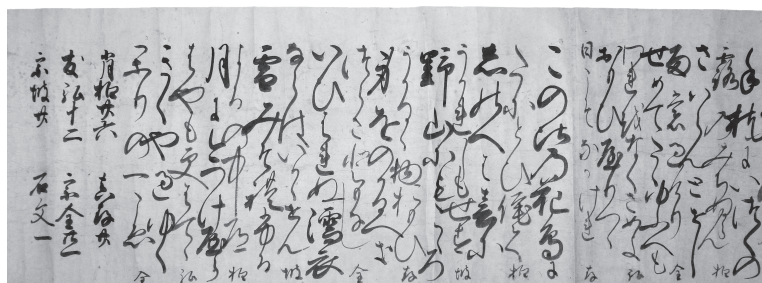
肖柏廿六	真存廿
友弘十二	宗全廿一
宗坡廿	石文一

L

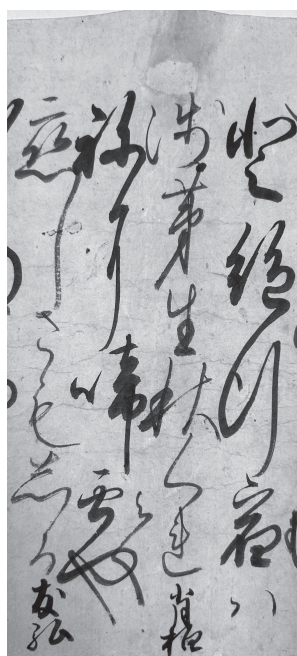
(あさい・みほ 本学准教授)



〔図1〕 巻頭



〔図2〕 巻末



〔図3〕 一三・一四句